



基本のトラクタ 安心しっかりマニュアル

使い慣れた機械でも、思わぬところに危険が潜んでいます。
常に「安全チェック」を行い、事故のない農作業を目指しましょう。

作業前

保護カバー類は
ついていますか？



安全フレームは
立っていますか？（ロプス機の場合）



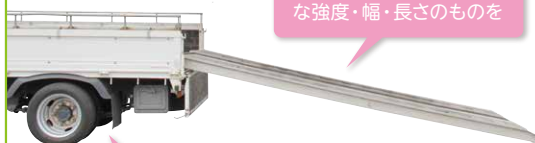
シートベルトは
つけていますか？

トラックでの
移動の時・・・

各レバーの位置は、OKですか？

1 下準備

トラックは、エンジンを止め、駐車ブレーキ



もちろん、平坦な場所で

アユミは、荷台の高さの4倍以上の長さで！十分な強度・幅・長さのものを

2 乗せてみよう！

ホイルトラクター → 後進で
セミクローラ → 前進で

車速は低速
アユミの上では
変速しない



左右のブレーキ
は連結

クラッチは踏まない

積み込みが終わったら駐車ブレーキをかけ、
タイヤにロープ掛けをしてください。

走行中

路上走行時



左右のブレーキを
連結してください

走行切換を「2WD」または
「4WD」にしてください。

圃場の出入り

正面から



圃場の出入り、畦越え
時は直角の向きで行
いましょう。

ナナメ
からは
NG!

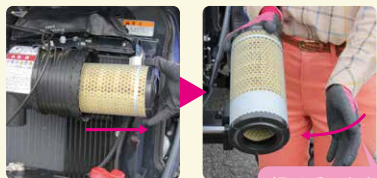
ナナメに進入すると、
転倒の恐れがあり
危険です。



基本のトラクタ作業前点検

エアクリーナ

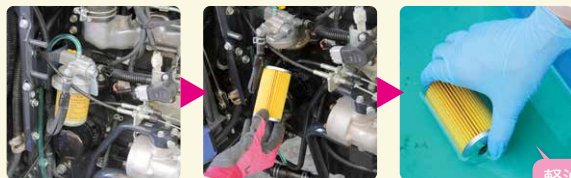
- ◎エレメントが詰まると、馬力不足や黒煙の発生、燃費が悪くなります。
- ◎乾いたホコリがついている場合はエレメントの内側から空気を吹き付けるか、手で軽くたたいてゴミを取り除いてください。
- ◎湿ったホコリで汚れている場合は、家庭用中性洗剤を水で薄めた液に約30分浸し、その後軽くすすいで自然に乾燥させてください。



軽く手でたたく

燃料フィルタ

- ◎フィルタ内に水・ゴミが沈殿していると、エンジン始動不良や吹けが悪くなりますので、内部洗浄します。燃料フィルタのレバーを「OFF」にした後、カップを外し、エレメント内部を軽油で洗浄してください。
- ◎組み付け後は、エア抜きをしてください。



軽油

バッテリー

バッテリー液は蒸発するので、少なくなっていたら補充します。インジケータで寿命を判断するものもあります。



タイヤの空気圧

前輪・後輪の空気圧が適正であるかを調べます。外観上の目安は下図の通りです。

空気圧ゲージで測定する場合は、取扱説明書に記載している適正な空気圧を参考にしてください。



空気が多い 適正 空気が不足

エンジンオイル

作業前はオイル量が適正か、汚れていないか確認します。オイル量が少なかったり、汚れているとエンジンの焼き付きにつながります。



上限と下限の間にオイルがあればOKです

オイルゲージのオイルを一度きれいにふき取り、ねじ込まずに給油口に差し込み、再度引き抜きます。

ラジエータ



詰まってしまうとエンジンのオーバーヒートにつながりますので、ネットに付いているごみを掃除しましょう。

リザーブタンク内の冷却水の水量を確認しましょう。

ブラシ等でごみを落とします



上限と下限の間であればOKです

ロータリの爪

爪が摩耗すると、耕うん能力が落ちてしまいます。爪が約半分まで摩耗が進んだら交換の目安となります。



取説へGO!

更に詳しくはこちらから





基本のトラクタ格納前手入れ

格納場所

長期格納する場合は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。また、周囲にはワラ等燃えやすいものが無いところで、シートをかけておくとも良いでしょう。

洗車の注意事項！



圧力水で洗車する際は、メーターパネルやハンドル回り、操作スイッチ回りなどの電気部品にはかけないでください。

各部の給油を行いましょう！

- ① 燃料タンクは満タンにしておきましょう。
→タンク内が結露して、水が混ざるのを防ぎます。
- ② 不凍液を入れておきましょう。
→外気温が0℃以下になる時は、エンジン凍結防止のため、必ずラジエータの冷却水に不凍液を混入してください。
- ③ エンジンオイルは、新しいオイルと交換しておくことをお勧めします。
→5分ほどエンジンをアイドリング回転で運転し、各部にオイルを潤滑させましょう。

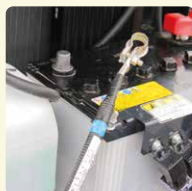


バッテリーは外しておきましょう！

そのままにしておくとバッテリーが放電してしまいます。

バッテリーは取り外して充電を行い、直接日光の当たらない乾燥した場所で保管しましょう。どうしても取り付けのまま保管しなければならないときは、必ずアース側（マイナス側）を外しておいてください。

※バッテリーを外すときはマイナス側を外してからプラス側を外します。装着時はプラス側を付けてからマイナス側を付けます。



作業機

作業機は取り外すか、または地面に降ろして保管してください。



取説へGO！

更に詳しくは
こちらから





基本のトラクタ 耕うんしっかりマニュアル

ロータリ作業編 その1

手順に沿って、ロータリ耕うんを始めてみよう!



エンジン
かける

1

ブレーキ連結解除



ブレーキの連結を解除。他にも、自動機能があるものは「入」に。

2

作業速に入れる



速度の目安は、1~2km/hです。変速レバーの位置は、車速表を確認してください。

3

PTOを入れる



PTOに入れ、変速レバーをまずは1速に。

6

ためしに耕うん!



作業機を下げて5mくらい、耕うんしてみましょう。

5

エンジン回転



エンジンを定格回転にします。

4

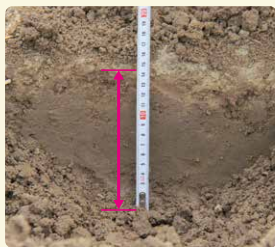
耕深調節



耕深自動を「入」にします。

7

耕うん深さを確認



一般的な深さは、13~15cmです。

8

しっかり耕うんできているか確認

凹凸がなければOK!



タイヤの跡がついているのはNG。NGの場合は、車速を遅くしたり耕うん深さを深くしてみよう。

耕うん START!!

取説へGO!

更に詳しくはこちらから



Point

	ダイヤルで調整	ロータリの尾輪で調整
深くする時	「深」に入れる	尾輪を上げる
浅くする時	「浅」に入れる	尾輪を下げる

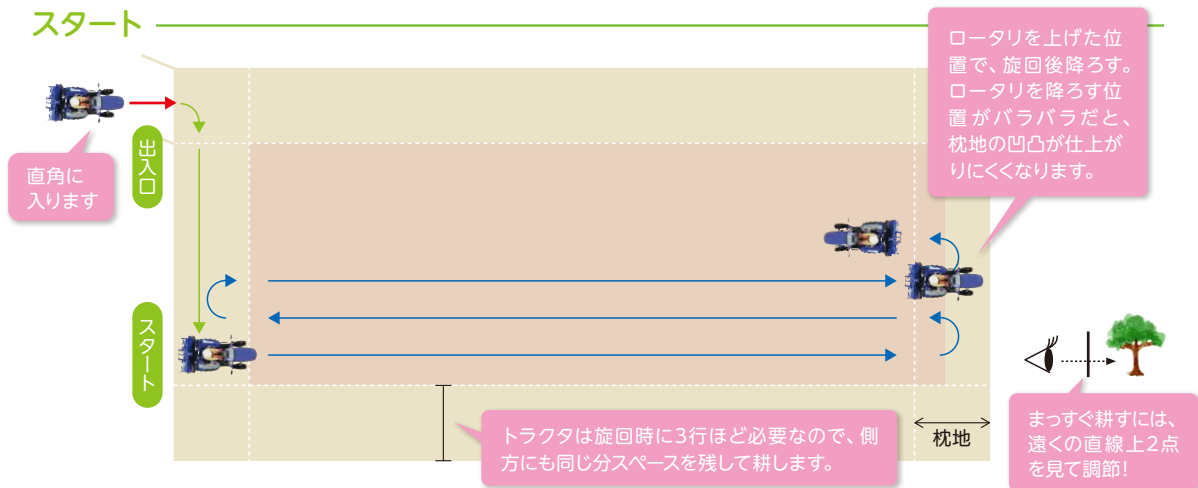


基本のトラクタ 耕うんしっかりマニュアル

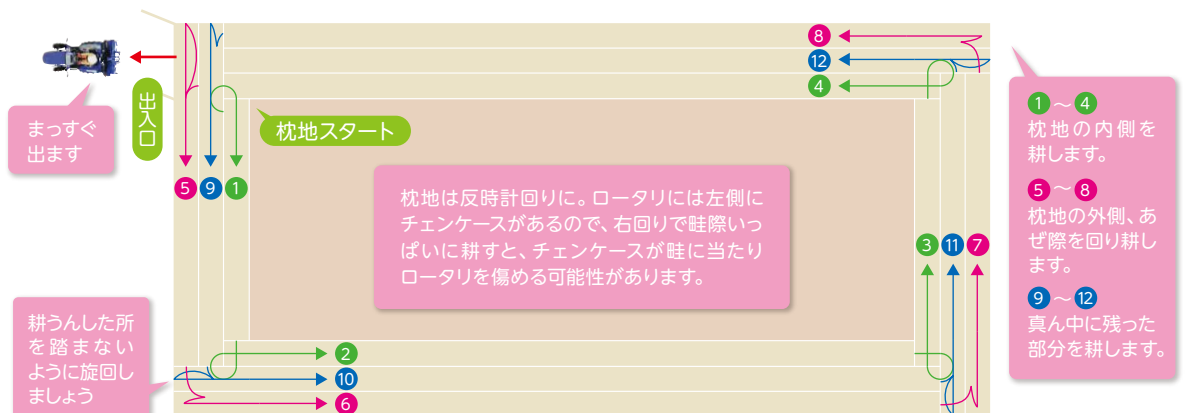
ロータリ作業編 その2

耕うんする時のルートをチェックしよう！

スタート



枕地・仕上げ



きれいに仕上げるコツ！キセキロータリの上手な使い方

回転ハンドルがついています。基本は耕うん位置ですが、調整するときれいに仕上がることがあります。

使い方は？



リヤカバー先端ができるだけ広く地面に接地するように回転ハンドルを回す。

※作業内容の範囲内で調整してください。

プレッシャースプリングって何に使うの？



耕うん時、リヤカバーをスプリングで押さえることで、碎土性・整地性が向上します。

※枕地や畦で有効です。水田の荒起こしでは土はけが悪くなり馬力ロスになることがあります。



使い方は？



下側のストッパーを上げてスプリングを効かせるだけ。



基本の 耕うん機・管理機しっかりメンテナンス

長くお使いいただくために、こまめにメンテナンスを行しましょう。

チェックの仕方



機械を水平にしてから、オイルゲージを抜いて一度オイルをきれいに拭き取り、ねじ込まずに給油口に差し込みます。再度引き抜き、オイルが上限と下限の間にあればOKです。

乾式



軽く手でたたく

中のスポンジまたは紙式を定期的に掃除してください。汚れがひどいときや破れているときは、交換してください。

オイルバス式



オイルパンのほこり等が沈殿したオイルを、定期的に交換してください。

エンジンオイル

エンジンオイルが不足している（下限より低い）とエンジンが焼きついてしまいます。交換してください。

エアクリーナ

詰まってしまうと、馬力不足、黒煙の発生、燃費が悪くなります。

燃料フィルタ

水、ゴミが溜まると、エンジン始動の不良、吹けが悪くなります。

爪

爪が摩耗していると耕うん能力が落ちてしまいます。爪が減ってきたら、新品に交換しましょう。



レバーを停止にします。



フィルタポット

ナットを緩めてフィルタポットを外します。



燃料フィルタ

フィルタポットと燃料フィルタを一緒に洗浄油で洗浄します。

交換時期

目安は半分くらいになったら

新品

機械をしまう前に・・・

長期間保管する際には、燃料が入ったままだと変質して次の使用が困難になる場合があるので、必ず燃料を抜いてください。

取説へGO!

更に詳しくはこちらから





基本の 耕うん機・管理機しっかりマニュアル ①

耕うん機・管理機は、操作も簡単で取り回しもよく、使いこなせば力強い相棒になってくれます。ぜひ使ってみてください。

安全作業のために

作業の
服装は？



首タオルNG

すっきりとした
服装

長ぐつ

トラックで移動する場合

積み込み



積み降ろし



積み込みは「前進1」、積み降ろしは「後進」でエンジン回転を低速まで下げてゆっくり行い、デフ切替レバーがあるものは、必ず「デフ固定／後進」の位置にしてください。

作業中の注意！！

草がからまった時は必ずエンジン停止



爪にからまった草を取る時や、機械の点検等する時は、必ずエンジンを止めてから行ってください。

バックする時は必ず後方確認



バック時、機械と障害物の間にはさまれる恐れがあるので、必ず後方を確認してください。

耕うん作業のPoint

始める前に・・・

ハンドルの高さを、体格に合った高さに合わせてください。

腰の位置が
目安です



耕うん深さを変える時

車軸型



浅くしたい→上げる 深くしたい→下げる
ハンドルの上下で抵抗棒のきかせ具合を変えて、深さとスピードを調整します

ロータリ型



浅くしたい→下げる 深くしたい→上げる
抵抗棒を上下して深さを調整します

土が固い時は・・・

浅く2～3回に分けて耕すようにしましょう。
いきなり深く耕すと、ダッシング（機械の爪が食いこまず、ロータリの回転で車体が急に押されること）が起こり、危険です。

更に
詳しくは ▶
こちらから

取説へGO!





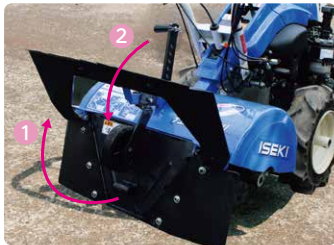
基本の 耕うん機・管理機しっかりマニュアル ②

うね立て作業 Point!

<アタッチメントなしの簡易うね立ての場合>

耕うん機の中には、アタッチメントなしでうねを立てられるものもあります。

うね立てプレート仕様の場合



① リアカバーを持ち上げて、② 尾輪でプレートを押さえれば、簡単にうね立て作業が行えます。

うねを立てる作業シーン



溝幅の広い台形うねになります。

中耕・培土もできる仕様の場合

ナタ爪タイプ



うね立て時は、爪の組み換えが必要。

※写真は逆転へ組み換え済みです。

正逆兼用爪タイプ



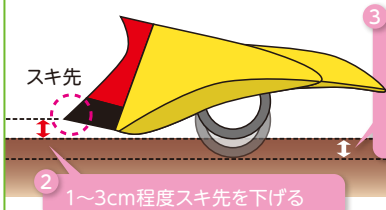
そのままOK! 爪の組み換え不要です。



うねの大きさは、カバーの開き量で調整できます。

<アタッチメントでの本格うね立ての場合>

外盛式 両側に土を盛ってうねを作るタイプです。



③ 作業中、潜ってしまう場合は尾輪を1〜3cm程度下げる

① 作業開始前に空走りで真っ直ぐタイヤ跡を付けます。タイヤ跡に沿って作業をすると、真っ直ぐにきれいなうねを立てやすくなります。(ロータリ耕うん機の場合)

② スキ先は地面から少し上を向いた状態で始めます。

③ 1mほど進み、作業機が潜ってしまうようであれば尾輪を下げます。

④ 深く食い込むようであれば、さらにスキ先を上向きに調整します。

内盛式 内側にアタッチメントの形でうねを作ります。

台形うね



丸うね



簡単にきれいなうね形状を作ることができます。

取説へGO!

更に詳しくはこちらから





基本の刈払機しっかりマニュアル

刈払機は、手軽で便利だけと思わぬところに危険がひそんでいます。
長く安全にお使いいただくために、ぜひこのマニュアルで使い方をマスターしてください！

作業前にチェック！

作業に
適した
服装で



防護メガネ
は必須！！



タオルなどNG

長袖

手袋

滑りにくい
作業靴

各部の点検

●各部のネジはしっかり締めてください



●刈刃はしっかり締める



●刈刃にヒビや欠けがある場合は必ず交換してください

燃料を入れる



混合燃料を使用します

ガソリン 50 : 1

ガソリン 25 : 1

FC級以上で

2サイクル
専用オイル
(50:1用)

2サイクル
専用オイル
(25:1用)

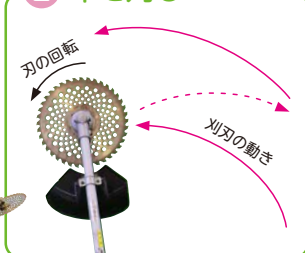
作業の Point

1 エンジン始動



刈刃を地面から浮かせて、スロットルレバーを低速の位置でリコイルを引っばる。

2 草を刈る



草を刈るときは右から左に動かします。逆にすると、硬いものに当たったとき刃が跳ね返って危険です。

もし草が巻きついたら・・・

**必ずエンジンを止めてから
取り除いてください。**

作業中は、15m以内に
他の人が入らないようにする。

石などが飛んできたり、思わぬケガをする場合があります。また、後ろから

話しかけられた場合、刃が回転したまま振り返ると危険なので、エンジンを止めてから話しましょう。



作業後は・・・

燃料を抜く

長期格納時は、燃料を抜いてください。燃料が残っていると、エンジンが不具合を起こしたり、火災の原因となります。



燃料を抜いてからエンジンをかけ、自然に停止するまで空回し。

点検整備は、お持ちの取り扱い説明書をご覧ください。